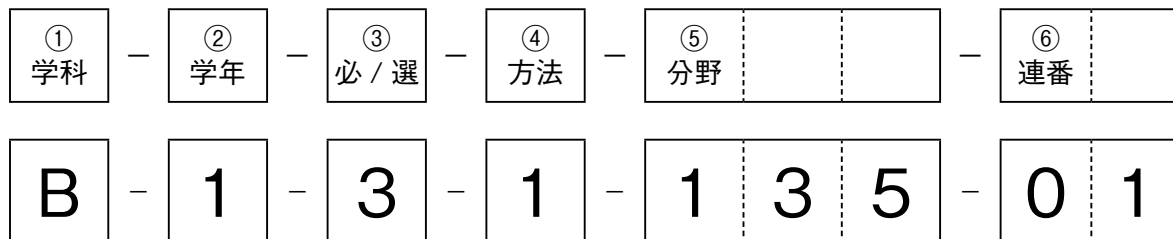


# 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは授業科目に適切な番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みで学生が科目の水準や専門性に応じて適切な授業科目を選択し、受講する手助けとなります。また、分野の3桁は全学共通のコードであるため他学部や他学科の科目を履修する際に、学びたい分野を探し体系的に履修するための1つのツールとして活用することができます。

## 1 科目ナンバリングの構成について

本学の科目ナンバリングは、以下の英数字9桁にて表します。



(例) 「文学Ⅰ」の科目ナンバー **B131 - 135 - 01**

①教養教育科目の ⑤文学一般関連分野の科目で ⑥1番目、授業は ②大学1年次レベル・③選択科目・④講義形式で授業を行う。

### 【ナンバリングの項目とコード】

#### ① 科目の設置学科(英字1文字)

学科学籍番号に表示のアルファベットが各学科の記号

R : 宗教文化学科	H : 歴史学科	K : 英語英米文化学科
N : 日本文化学科	V : グローバル英語学科	C : 商学科
M : 経営学科	E : 経済学科	J : 法律学科
W : 現代社会法学科	G : 総合政策学科	P : 心理学科
Z : 健康科学科	X : 健康栄養学科	A : 医療薬学科
D : 歯学科	B : 教養教育科目	L : 資格課程科目
Q : 自由選択科目		

#### ② 科目の難易度(数字1文字)

0 : 大学補習レベル	1 : 大学1年次レベル	2 : 大学2年次レベル
3 : 大学3年次レベル	4 : 大学4年次レベル	
5 : 大学5年次レベル(薬・歯)	6 : 大学6年次レベル(薬・歯)	

#### ③ 必修・選択の別(数字1文字)

1 : 必修科目	2 : 選択必修科目	3 : 選択科目
----------	------------	----------

#### ④ 授業の方法(数字1文字)

1 : 講義	2 : 演習	3 : 実験・実習	4 : 外国語	5 : 実技
6 : 卒業論文	7 : 臨床実習	8 : 認定	9 : その他	

#### ⑤ 科目分野(英数字3文字)

「科目ナンバリング分野一覧」を参照

#### ⑥ 科目認識番号(英数字2文字)

科目分野の下に割り当て、学部学科独自の方法にて表示します。

# 科目ナンバリング

## 2 科目ナンバリング分野一覧

コード	分野	コード	分野	コード	分野
111	哲学、論理学および倫理学関連	272	教育社会学関連	621	生命、健康および医療情報学関連
112	中国哲学、印度哲学および仏教学関連	276	特別支援教育関連	622	ウェブ情報学およびサービス情報学関連
113	宗教学関連	277	教育工学関連	634	環境影響評価関連
114	思想史関連	281	社会心理学関連	644	自然共生システム関連
115	美学および芸術論関連	282	教育心理学関連	646	環境政策および環境配慮型社会関連
116	美術史関連	283	臨床心理学関連	737	プランニング関連
117	芸術実践論関連	284	実験心理学関連	738	社会システム工学関連
118	科学社会学および科学技術史関連	285	心理学基礎関連	772	分析化学関連
131	日本文学関連	286	心理学展開関連	801	地域研究関連
132	中国文学関連	287	公認心理師および認定心理士関連	802	アメリカ領域関連
133	英文学および英語圏文学関連	323	数学基礎関連	803	イギリス領域関連
135	文学一般関連	388	食品科学関連	804	英語圏領域関連
136	言語学関連	411	食料農業経済関連	811	観光学関連
137	日本語学関連	420	自然科学基礎関連	821	ジェンダー関連
138	英語学関連	423	動物生命科学関連	841	演習(基礎)関連
139	日本語教育関連	445	動物生理化学、生理学および行動学関連	842	演習(専門)関連
140	外国語教育関連	451	遺伝学関連	843	演習(外書)関連
141	英語演習関連	454	生態学および環境学関連	845	卒業論文関連
142	通訳・翻訳関連	471	薬系化学および創薬科学関連	851	学外実習関連
143	ESP関連	474	薬理学関連	852	学外研修関連
144	英語系資格関連	481	解剖学関連	861	キャリア教育関連
145	ドイツ語関連	482	生理学関連	901	デザイン学関連
146	フランス語関連	492	人体病理学関連	902	図書館情報学および人文社会情報学関連
147	中国語関連	495	細菌学関連		
148	韓国語関連	503	医学一般関連		
161	史学一般関連	511	基盤脳科学関連		
162	日本史関連	512	認知脳科学関連		
163	アジア史およびアフリカ史関連	513	病態神経科学関連		
164	イスラム圏史関連	521	内科学一般関連		
165	ヨーロッパ史およびアメリカ史関連	522	神経内科学関連		
166	考古学関連	523	精神神経科学関連		
167	文化財科学関連	525	胎児医学および小児成育学関連		
181	地理学関連	531	消化器内科学関連		
182	人文地理学関連	556	救急医学関連		
183	文化人類学および民俗学関連	565	耳鼻咽喉科学関連		
211	基礎法学関連	567	形成外科学関連		
212	公法学関連	571	常態系口腔科学関連		
213	国際法学関連	576	外科系歯学関連		
214	社会法学関連	578	社会系歯学関連		
215	刑事法学関連	582	衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含む		
216	民事法学関連	583	衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含まない		
217	新領域法学関連	585	基礎看護学関連		
221	政策学関連	586	臨床看護学関連		
222	政治学関連	587	生涯発達看護学関連		
223	国際関係論関連	591	リハビリテーション科学関連		
231	理論経済学関連	592	スポーツ科学関連		
232	経済学説および経済思想関連	593	体育および身体教育学関連		
233	経済統計関連	594	栄養学および健康科学関連		
234	経済政策関連	601	情報学基礎論関連		
235	公共経済および労働経済関連	602	数理情報学関連		
236	金融およびファイナンス関連	603	統計科学関連		
237	経済史関連	605	ソフトウェア関連		
238	経営学関連	606	情報ネットワーク関連		
239	商学関連	607	情報セキュリティ関連		
240	会計学関連	608	データベース関連		
261	社会学関連	611	知覚情報処理関連		
262	社会福祉学関連	612	ヒューマンインタフェースおよびインタラクション関連		
271	教育学関連	613	知能情報学関連		

Ⅰ.大学で学ぶために

Ⅱ.授業・試験・成績

Ⅲ.履修関連事項

Ⅳ.カリキュラム

Ⅴ.諸資格の取得

Ⅵ.カリキュラムマップ

Ⅶ.諸規則

Ⅷ.教室見取図

# カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、授業科目と教育目標の関係を示した表のことで、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、各科目が卒業するまでに身につける能力のどの項目と関連するかを示しています。

このカリキュラムマップにより、学修内容の順次性や科目間の関連性が一目でわかり、自らの学修内容を容易に把握することができます。

## 心理学部心理学科 カリキュラムマップ

心理学部心理学科の教育目標			心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)		
心理学部は、個人または集団の行動特性と取り巻く環境要因を客観的に評価し、直面する問題への解決策を導くことができる人材、心理学の新しい活用法を立案、展開できる人材を育成する。そのための教育研究上の目的として、(1)人の心理的問題を解明または解決するための、科学的アプローチを修得すること。(2)医療、産業、地域コミュニティなどの様々な状況において活用できる基礎的、専門的知識と技能を修得すること。(3)多様な場面における新規の諸問題に対して、多角的かつ科学的に分析し、解決へ導くための応用力技能を修得すること。の3項目をあげ教育の基本理念とする。					
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
宗教学Ⅰ B111-113-01	「建学の精神」を学び、また、多様な宗教の見方・捉え方(分類法など)や、世界各地の宗教の概要・歴史を学習する。	宗教を客観的に学ぶことで高い倫理性を持った人間性を獲得し、また、世界各地の宗教を学ぶことで多様な文化・価値観を理解する。	◎		○
宗教学Ⅱ B111-113-02	インドで生まれた仏教・禅の教え(世界観・価値観)の基本を学び、世界各地へ伝わった歴史を学ぶ。	仏教の智慧を学ぶことで、課題発見力や問題解決力を養い、また、慈悲を学ぶことで、他者との協調性を養い、価値観の多様化した現代においても力強く生きられる柔軟性を得る。	◎		○
教養セミナー「学問の発見」Ⅰ B132-841-01	教員の専門性を生かしながら、学生の学びへの姿勢を喚起させる。そのため、愛知学院大学教養部が編纂した教養セミナーハンドブック第Ⅰ部「大学で学ぶために」を共通テキストとして使用する。	リベラル・アーツへの目覚めを喚起し、高校までの受動的な学習形態から、大学での能動的な学習形態へ導き、大学で学ぶための心構えを意識させることを目標とする。	○	○	
教養セミナー「学問の発見」Ⅱ B132-841-02	教員の専門性を生かしながら、学生の学びへの姿勢を喚起させる。そのため、愛知学院大学教養部が編纂した教養セミナーハンドブック第Ⅰ部「大学で学ぶために」を共通テキストとして使用する。	リベラル・アーツへの目覚めを喚起し、高校までの受動的な学習形態から、大学での能動的な学習形態へ導き、大学で学ぶための心構えを意識させることを目標とする。	○	○	
教養セミナー「学問の発見」Ⅲ B232-841-03	「教養セミナーⅠ・Ⅱ」の発展系の授業として「学問の発見」をより深く考える科目であり、各担当教員の専門性を活かした形での授業として少人数のセミナー形式で授業が行われる。	各担当教員による幅広い分野の専門性を活かした科目として、学問に対する好奇心や探究心などをより一層高めることを目標とする。	○	○	
教養セミナー「学問の発見」Ⅳ B232-841-04	「教養セミナーⅠ・Ⅱ」の発展系の授業として「学問の発見」をより深く考える科目であり、各担当教員の専門性を活かした形での授業として少人数のセミナー形式で授業が行われる。	各担当教員による幅広い分野の専門性を活かした科目として、学問に対する好奇心や探究心などをより一層高めることを目標とする。	○	○	
哲学Ⅰ B131-111-01	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。	◎	○	
哲学Ⅱ B131-111-02	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。	◎	○	

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
論理学 I B131-111-11	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。	○	◎	
論理学 II B131-111-12	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。	○	◎	
文学 I B131-135-01	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。	◎	○	
文学 II B131-135-02	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。	◎	○	
美術 I B-131-116-01	美術の歴史、人物、環境等を通し現代社会の美術の見方、考え方を学び美術の基本姿勢を修得させていく。	美術の基本的な姿勢や見方を修得する。個々の美術観を築き表現法を見出ししていく。	◎		△
美術 II B131-116-02	美術の基本理念に基づき多様に広がる美術事情を探り自己の美意識を広げ表現力を高めていく。	美術の理念を深め自己の造形に表現力を加え、美術の基礎の確立を計る。	◎		△
法学 I B131-211-01	法学全般の基礎、及び憲法の基礎について講義する。	法学全般に通じる基本原理、及び憲法の基本原理を理解する。	◎		
法学 II B131-211-02	民法の基礎について講義する。	民法の基本原理を理解する。	◎		
政治学 I B131-222-01	民主主義・自由主義などの原理、執政制度・選挙制度などの政治制度を学ぶ。	政治の基本的原理や制度を理解する。	○	△	
政治学 II B131-222-02	日米英独仏など各国の政治を比較して学ぶ。国際政治の仕組みについて学ぶ。	各国政治および国際政治の基本を理解する。	○	△	
経済学 I B131-231-01	経済学の基礎概念をミクロ経済学で扱うトピックスを中心に概説する。	ミクロ経済学の基本的な概念を理解し、ミクロ経済学的に経済事象を論じることができるような基礎的能力を身につける。	○	△	
経済学 II B131-231-02	経済学の基礎概念をマクロ経済学で扱うトピックスを中心に概説する。	マクロ経済学の基本的な概念を理解し、マクロ経済学的に経済事象を論じることができるような基礎的能力を身につける。	○	△	
社会学 I B131-261-01	本講義は、具体例を挙げながら、社会学が考えてきたこと、明らかにしてきたことを確認し、社会学の概念や方法を理解していきます。また、それらの知識を用いて、現代社会の諸課題についても考えます。	社会学の「問い」、「概念」、「方法」を理解すること。そして、社会的思考を用いて、自ら現代社会の諸課題の様相について説明できるようになること。	○	○	
社会学 II B131-261-02	本講義は、社会階層、文化集団、コミュニティ等を取り上げ、社会的な視点からそれらの集団の特徴を理解していきます。そして各集団と現代社会の諸課題の関連についても考えていきます。	各集団の特徴を理解すること。そして、現代社会の諸課題が各集団のなかでなぜ発生し、どのように顕在化していくのかについて説明できるようになること。	○	○	
教育学 I B131-271-01	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を利活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	○	○	

心理学部心理学科 カリキュラムマップ			心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)		
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
教育学Ⅱ B131-271-02	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	○	○	
歴史学Ⅰ B131-161-01	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。	○	△	
歴史学Ⅱ B131-161-02	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。	○	△	
地理学Ⅰ B131-181-01	地理学の基礎的な知識を、国内外の社会の中にみられる具体的な事例を挙げながら紹介する。社会や自然を構成する多様な要素を取り上げ、それらの相互関係や、分布の差異を示すことで、地理学的なものとのらえ方を身に着ける。	社会の中にみられる諸現象を地理学的な観点から説明することができる。世界あるいは日本の中にみられる多様性と地域性について理解することができる。	○	△	
地理学Ⅱ B131-181-02	地理学が扱う多様な課題の中から特定のものを取り上げ、その問題を関連する事象とともに追究する。このことによって、取り上げる課題についての理解を深めるとともに、地理学的なものとのらえ方についても深化させる。	取り上げる地理学的課題についての基礎的な知識事項を述べることができる。取り上げる地理学的課題を通じて、世界・日本の社会・自然のあり方について、論理的な考察が行えるようになる。	○	△	
数学Ⅰ B131-323-01	数学の問題を解くことを通して、数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。		○	
数学Ⅱ B131-323-02	数学の問題を解くことを通して、より進んだ数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な、より進んだ数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。		○	
統計学Ⅰ B131-603-01	統計の問題を解くことを通して、統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ統計的手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。		◎	
統計学Ⅱ B131-603-02	統計の問題を解くことを通して、より進んだ統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ、より進んだ統計的手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。		◎	
物理学Ⅰ B131-420-01	身近な現象を題材にして、生活や社会に密接に関わっている「物理」を学ぶ。	なぜ？という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。	○		
物理学Ⅱ B131-420-02	身近な現象を題材にして、生活や社会に密接に関わっている「物理」を学ぶ。	なぜ？という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。	○		
化学Ⅰ B131-420-11	化学の基礎を学びながら、日常生活に関わる身の回りの物質を化学的立場から捉え、化学が果たしている役割を考えます。「なぜこうなるの？」といった好奇心から出発して、化学の面白さを伝えます。	素朴な疑問をもとに、文系の学生にとっての化学に対する苦手意識を軽減します。化学的なモノの考え方を修得し、科学リテラシーや論理的思考力を身につけることを目標とします。	○		
化学Ⅱ B131-420-12	化学の基礎を学びながら、日常生活に関わる身の回りの物質を化学的立場から捉え、化学が果たしている役割を考えます。「なぜこうなるの？」といった好奇心から出発して、化学の面白さを伝えます。	素朴な疑問をもとに、文系の学生にとっての化学に対する苦手意識を軽減します。化学的なモノの考え方を修得し、科学リテラシーや論理的思考力を身につけることを目標とします。	○		
生物学Ⅰ B131-420-21	身近なできごとやさまざまな社会問題と生物学の関わりを知り、生物を理解するために必要な教養レベルでの基礎的知識と概念を学ぶ。	社会生活の中で直面する様々な医療問題や環境問題などを正しく理解し、また自分で考えるために必要な基礎的な生物学的知識を身につける。	○	○	

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
生物学Ⅱ B131-420-22	身近なできごとやさまざまな社会問題と生物学の関わりを知り、生物を理解するために必要な教養レベルでの基礎的知識と概念を学ぶ。	社会生活の中で直面する様々な医療問題や環境問題などを正しく理解し、また自分で考えるために必要な基礎的な生物学的知識を身につける。	○	○	
情報科学Ⅰ B131-601-01	コンピュータを扱うことを通して、コンピュータとネットワークの知識を習得する。	社会生活に役立つコンピュータとネットワークの知識と、その倫理的問題点の習得を到達目標とする。		◎	
情報科学Ⅱ B131-601-02	コンピュータを扱うことを通して、コンピュータとネットワークのより進んだ知識を習得する。	社会生活に役立つより進んだコンピュータとネットワークの知識と、その倫理的問題点の習得を到達目標とする。		◎	
情報科学Ⅲ B131-601-03	コンピュータを通して、データサイエンスに関してリテラシーレベルよりも一歩進んだ知識を習得する。	データサイエンスに関して、リテラシーレベルよりも一歩進んだ知識と、その倫理的問題点の習得を到達目標とする。		◎	
情報科学Ⅳ B131-601-04	コンピュータを通して、データサイエンスに関してより進んだ知識を習得する。	データサイエンスに関して、より進んだ知識と、その倫理的問題点の習得を到達目標とする。		◎	
仏教と現代社会Ⅰ B231-112-01	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題を考える力を育てる。	◎		△
仏教と現代社会Ⅱ B231-112-02	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題を考える力を育てる。	◎		△
禅と人間Ⅰ B231-112-11	禅の概要および禅宗の特徴を概説し、禅語(公案)を通じて禅の思想を解説するとともに、坐禅の実習によって禅の修行を体感する。	坐禅や公案の学習などの禅の修行生活の重要な要素を通じて、禅の本質を理解する。	○		○
禅と人間Ⅱ B231-112-12	中国および日本における禅宗の歴史や思想を概説し、禅の影響のもと成立した茶道・絵画・建築・陶磁器・書などの日本独自文化を解説する。	禅と日本文化との関係を具体的に理解し、禅によって培われた日本独自の美意識や感性を体得する。	○		○
生命に関する諸問題Ⅰ B231-118-01	と死」という解決し難い古来からのテーマについて、自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな課題を見出ししたりする力をつける。自分なりの「生命観」・「人生観」・「死生観」を築く。	◎	○	
生命に関する諸問題Ⅱ B231-118-02	と死」という解決し難い古来からのテーマについて、自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな課題を見出ししたりする力をつける。自分なりの「生命観」・「人生観」・「死生観」を築く。	◎	○	
人間行動の理解Ⅰ B231-285-01	心理学で扱う理論や事象は実験や調査で得られたデータに基づいている。本講義では、実際に実験を行い、仮説検証の考え方からデータの収集方法、結果の解釈に至るまで、心理学の基本的な方法論について理解を深める。	心の仕組みや働きを明らかにするための様々な方法論を理解したうえで、科学的な手続きと正確なデータ収集の重要性を認識し、さらにそれらをまとめて論理的な報告書の作成ができるようになること。		◎	○
人間行動の理解Ⅱ B231-285-02	フロイトの精神分析の口語版といわれる「交流分析」の理論と実践について学ぶ。交流分析は、パーソナリティ理論やコミュニケーション理論を含む心理療法のひとつであり、自己洞察を繰り返すことで、より良い人間関係と自己の生き方を築くことを目指す。	自己理解と他者理解を深め、よりよいコミュニケーションと自己の問題点の把握と改善へつなげること。		◎	○
人間の尊厳と平等Ⅰ B231-261-01	本授業では、これまでに人間社会が形成してきた人権について、様々な歴史的事例や条文などの学びを通して、人権の基礎を習得する。	人権の成立過程や現代における課題を学び、一人一人の人間性を尊重し、他者と協調できるようになる。また、差別について批判的精神を養う。	◎		○
人間の尊厳と平等Ⅱ B231-261-02	本授業では、社会福祉の成立過程を学びながら、「福祉国家」や「社会福祉事業」への理解を深め、社会福祉の基礎を習得する。	社会福祉の学びを通して、一人一人の人間性を尊重し、多様な価値観を理解できるようになる。そして、自ら社会貢献が積極的になることを目指す。	◎		○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
日本の文化と社会 I B231-162-01	日本の歴史・文学・ことばを中心に、人々がそれらの事象とどのように関わってきたのか、どのような変化をとげてきたのか、を学ぶ。	科学的な探究の精神に基づいて、日本における、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。	○	△	○
日本の文化と社会 II B231-162-02	日本の歴史・文学・ことばを中心に、人々がそれらの事象とどのように関わってきたのか、どのような変化をとげてきたのか、を学ぶ。	科学的な探究の精神に基づいて、日本における、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。	○	△	○
アジアの文化と社会 I B231-163-01	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	△	△	○
アジアの文化と社会 II B231-163-02	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	△	△	○
ヨーロッパの文化と社会 I B231-165-01	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。	○	△	△
ヨーロッパの文化と社会 II B231-165-02	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。	○	△	△
英語圏の文化と社会 I B231-804-01	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解できる。	○	△	○
英語圏の文化と社会 II B231-804-02	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解して説明できる。	○	△	○
人間と環境 I B231-646-01	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混淆の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。	△		○
人間と環境 II B231-646-02	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混淆の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。	△		○
情報と社会 I B231-622-01	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。		○	
情報と社会 II B231-622-02	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。		○	
産業と科学 I B231-118-01	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。		○	
産業と科学 II B231-118-02	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。		○	
ソフトウェア概論 I B231-605-01	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、コンピュータの多様な使い方を習得する。	コンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。		○	
ソフトウェア概論 II B231-605-02	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、より進んだコンピュータの多様な使い方を習得する。	より進んだコンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。		○	
健康の科学 B231-594-01	健康や病気を理解するための基礎知識、とくに生活習慣との関わりや疾病予防の重要性について解説する。	健康的な生活を送るための基礎知識を身につけ、日常生活の中で実践できるようになることを目的とする。	○	△	○
英語 I a B114-141-01	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	基礎的な英語表現の聞き取りと基礎的な会話表現ができる。	△		◎
英語 II a B114-141-02	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	少し発展的な英語表現の聞き取りと会話表現ができる。	△		◎

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
英語 I b B114-141-03	英語の読解を中心とした総合演習	基礎的な英文を読んで内容が理解できる。	△		◎
英語 II b B114-141-04	英語の読解を中心とした総合演習	少し発展的な英文を読んで内容が理解できる。	△		◎
英語 I c B214-141-05	英作文・英文法を中心とした総合英語	基礎的な英文を書いて自己表現ができる。	△		◎
英語 II c B214-141-06	英作文・英文法を中心とした総合英語	少し発展的な英文を書いて自己表現ができる。	△		◎
ドイツ語 I B114-145-01	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解	△		◎
ドイツ語 II B114-145-02	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解	△		◎
中国語 I B114-147-01	発音の習得から始めて、入門時に必要とされる常用単語及び初歩的な文型を学び、未習外国語である中国語の学習の基礎を固める。常に双方向の授業を心がけ、中国語運用能力の基礎を作る。	中国語の発音を習得し、中国語のローマ字表記を読めるようにする。併せて、初歩的な常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な中国語を使えるようにする。	△		◎
中国語 II B114-147-02	中国語 I で学んだ中国語の基礎の上にさらにステップアップを目指す。発音の習熟度をより高め、語彙及び理解でき、かつ使用できる文型を増やすことによって、中国語の運用能力を高める。	中国語の発音をより確実なものにし、より多くの常用語彙、重要文型を学び、中国語の構造に対する理解を深め、初歩的な中国語運用能力を身につけるようにする。	△		◎
韓国語 I B114-148-01	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、それを通じて朝鮮半島の歴史、社会、文化、思想について理解を深め、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。	△		◎
韓国語 II B114-148-02	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、それを通じて朝鮮半島の歴史、社会、文化、思想について理解を深め、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。	△		◎
スペイン語 I B114-149-01	綴りや発音のルール、文章の基本的な構成を学ぶ。	正確な発音ができるようになる。挨拶、簡単な自己紹介、日常の動作を表現し、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。	△		◎
スペイン語 II B114-149-02	好きなものや好きなこと、日課や今後の予定、天候といったより高度な表現を学ぶ。	スペイン語の音や文章構造に慣れ、さらに豊かな表現ができるようになる。また、目的語の代名詞を使ってよりコンパクトな文章を作ることができる。	△		◎
ドイツ文化事情 B124-145-61	ドイツ語圏の国々の思想・文化・社会の探究	「ドイツ」から今後の日本社会に優位な考え方を学び取る。	○	△	○
中国文化事情 B124-147-61	映像等を用い、中国の歴史、地理、社会等各方面から、中国語の背後にある中国文化の様々な側面を学び、多様な文化に対する理解を深める。	中国の社会や伝統文化に対する知識を増やし、より広い視野を持って、多様な文化、価値観が理解できるようになることを目指す。	○	△	○
韓国文化事情 B124-148-61	様々な文献・視聴覚資料を活用し、韓国・朝鮮の文化・社会・歴史などについて学ぶ。単なる知識の伝達ではなく、日本との比較などや、様々な観点からの観察・分析、「韓国文化」の全般について正しく理解していく。	日常の様々な事柄について客観的な立場から観察・分析力を身につけることができる。また、日韓の文化比較を行い様々な意見や情報交換によって、自分の意見を表明する積極性と論理性を高めることができる。	○	△	○
スペイン文化事情 B124-149-61	スペインおよびラテンアメリカ諸国の歴史や文化、芸術、思想を広く紹介する。	異文化に触れることで自分の視野を広げるとともに、馴染みの深い文化と比較することによって新たな角度から既知の文化を観察し、その個性を再認識できる。	○	△	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
日本語 I a B114-139-01	高度な文法力や読解力を身につけることを目的に論理的な文章を読む。	論理的な文章が読めるようになる。また、教材を通して日本社会への理解を深めることができる。	△		◎
日本語 II a B114-139-02	読解力を向上させるために、論理的な文章だけでなく、エッセイなども取り上げて読む。	様々なタイプの文章を、一人で読めるようになる。また、内容に関して意見や感想をまとめることができる。	△		◎
日本語 I b B114-139-03	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	留学生活に必要な聴解力・会話力を身につけ、わかりやすい発表ができるようになる。	△		◎
日本語 II b B114-139-04	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	日本社会で起きている話題について聞き取れ、資料を基に論理的に意見が述べられるようになる。	△		◎
日本語 I c B114-139-05	論理的な文章をわかりやすく書くための基礎的な技法を学ぶ。	事実と自分の考えとを書き分ける力、資料に基づいて自分の考えを書き進める力などを身につけることができる。	△		◎
日本語 II c B114-139-06	関心のあるテーマについて問題を見出し、資料を用いてその答えをレポートとしてまとめる。	レポートを書くことを通して、読み・書きの高度な日本語力を身につけることができる。	△		◎
日本語 I d B214-139-07	意見文を読み、自分の意見を述べたり、内容を要約したりする。	社会で問題になっている様々な問題について、自分の考えをわかりやすく述べることができる。	△		◎
日本語 II d B214-139-08	ディベートやスピーチ学習などを通して、まとまりのある内容を的確に伝える方法を学ぶ。	自分の考えをわかりやすく伝えることができる。	△		◎
日本語 I e B214-139-09	「食」をメインテーマに課題を設定し、資料を集め、まとめて発表する。	高度な日本語力およびプレゼンテーション能力を身につけることができる。	△		◎
日本語 II e B214-139-10	日本の文化や社会に関するテーマについて、課題を設定し、調べて発表する。	高度な日本語力およびプレゼンテーション能力を身につけることができる。	△		◎
英会話 I B134-141-11	外国人教員による英会話演習	簡単な英会話で自己表現ができる。	△		◎
英会話 II B134-141-12	外国人教員による英会話演習	少し発展的な内容の英会話で自己表現ができる。	△		◎
英会話 III B234-141-21	外国人教員による発展的英会話演習	日常的な内容の英会話で自己表現ができる。	△		◎
英会話 IV B234-141-22	外国人教員による発展的英会話演習	発展的な様々な内容の英会話で自己表現ができる。	△		◎
メディア英語 I B134-141-17	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで基本的な表現が理解できる。	△		◎
メディア英語 II B134-141-18	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで少し発展的な表現が理解できる。	△		◎
メディア英語 III B234-141-27	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで多くの表現をそのまま理解できる。	△		◎
メディア英語 IV B234-141-28	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで発展的な内容がそのまま理解できる。	△		◎
英語表現法 I B134-141-15	英作文や会話などの英語による自己表現演習	基礎的な英語を使って自己表現ができる。	△		◎
英語表現法 II B134-141-16	英作文や会話などの英語による自己表現演習	少し発展的な英語を使って自己表現ができる。	△		◎
英語表現法 III B234-141-25	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる。	△		◎
英語表現法 IV B234-141-26	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	少し発展的な英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる。	△		◎
英語読解法 I B134-141-13	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で様々な英文の内容が理解できる。	△		◎

心理学部心理学科 カリキュラムマップ			心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)		
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理学的な支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
英語読解法Ⅱ B134-141-14	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で少し発展的な英文の内容が理解できる。	△		○
英語読解法Ⅲ B234-141-23	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な英文の内容が理解できる。	△		○
英語読解法Ⅳ B234-141-24	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な発展的な英文の内容が理解できる。	△		○
実践英語Ⅰ B134-141-31	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で基礎的な問題の解答ができる。	△		○
実践英語Ⅱ B134-141-32	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で少し発展的な問題の解答ができる。	△		○
実践英語Ⅲ B234-141-41	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で発展的な問題の解答ができる。	△		○
実践英語Ⅳ B234-141-42	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で少し高度な問題の解答ができる。	△		○
ドイツ語Ⅰ(基礎) B134-145-11	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解	△		○
ドイツ語Ⅱ(基礎) B134-145-12	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解	△		○
ドイツ語Ⅲ(読解) B234-145-21	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化	△		○
ドイツ語Ⅳ(読解) B234-145-22	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化	△		○
ドイツ語Ⅲ(表現) B234-145-31	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力(作文力)強化	△		○
ドイツ語Ⅳ(表現) B234-145-32	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力(作文力)強化	△		○
ドイツ語Ⅲ(総合) B234-145-41	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化	△		○
ドイツ語Ⅳ(総合) B234-145-42	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化	△		○
ドイツ語会話Ⅰ B234-145-51	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成	△		○
ドイツ語会話Ⅱ B234-145-52	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成	△		○
中国語Ⅰ(基礎) B134-147-11	発音の習得から始めて、入門時に必要とされる常用単語及び初歩的な文型を学び、未習外国語である中国語の学習の基礎を固める。常に双方向の授業を心がけ、中国語運用能力の基礎を作る。	中国語の発音を習得し、中国語のローマ字表記を読めるようにする。併せて、初歩的な常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な中国語を使えるようにする。	△		○
中国語Ⅱ(基礎) B134-147-12	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎の上にさらにステップアップを目指す。発音の習熟度をより高め、語彙及び理解でき、かつ使用できる文型を増やすことによって、中国語の運用能力を高める。	中国語の発音をより確実なものにし、より多くの常用語彙、重要文型を学び、中国語の構造に対する理解を深め、初歩的な中国語運用能力を身につけるようにする。	△		○
中国語Ⅲ(読解) B234-147-21	1年次に習得した中国語を基礎に、簡単な文章を読むことによって中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の読解力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。	△		○
中国語Ⅳ(読解) B234-147-22	中国語Ⅲ(読解)を受けて、様々な文章を読むことによって、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の読解力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。	△		○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
中国語Ⅲ(表現) B234-147-31	1年次に習得した中国語を基礎に、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の表現力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。	△		◎
中国語Ⅳ(表現) B234-147-32	中国語Ⅲ(読解)を受けて、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の表現力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。	△		◎
中国語Ⅲ(総合) B234-147-41	1年次に習得した中国語を基礎に、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、常用語を身につけ、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の運用能力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。	△		◎
中国語Ⅳ(総合) B234-147-42	中国語Ⅲ(総合)を受けて、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、使える常用語を増やし、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。	△		◎
中国語会話Ⅰ B234-147-51	発音の練習を重視し、ペアワークによる会話練習を行い、中国語の会話力を向上させる。併せて、作文と翻訳の練習も行い、中国語の総合的な運用能力を高める。	1年次で学んだ中国語の発音をより正確なものにし、あいさつなどの簡単な言葉から日常用いる初歩的な会話ができるようにする。中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。	△		◎
中国語会話Ⅱ B234-147-52	中国語会話Ⅰを受け、引き続き発音練習を重視し、ペアワークによる会話をほぼ毎回行って、会話力をより向上させる。併せて作文と翻訳の練習にも力を入れ、中国語の総合的な運用能力を高める。	中国語をより正確に発音できるようにし、より多くのことを表現できるよう会話力を高める。会話力と同時に、作文能力や読解力も向上させ、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。	△		◎
フランス語Ⅰ(基礎) B134-146-11	綴りと音の関係を理解し、フランス語文の音読を可能にする。基本文型を暗記し、フランス語のリズムを覚える。	フランス語文を単独で音読できるようにし、挨拶や買い物などの簡単な日常会話に慣れる。	△		◎
フランス語Ⅱ(基礎) B134-146-12	人称の概念を理解し、基本動詞の活用を学習する。辞書を利用して平易なフランス語文を訳読し、暗記する。	会話文や説明文を、辞書を用いて単独で読解する。人物の会話から、フランス人の基本となる物の考え方を理解する。	△		◎
フランス語Ⅲ(総合) B234-146-41	短文の反復や言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の表現を確実に身につける。	フランスで生活するつもりになって、フランス語でフランス人に意志を伝えるつもりで、フランス語会話に集中する。	△		◎
フランス語Ⅳ(総合) B234-146-42	練習問題による言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の構造を確実に身につける。	フランス語の基本的な例文を覚えると同時に、日本語からフランス語への言い換えもできるようにする。	△		◎
韓国語Ⅰ(基礎) B134-148-11	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。「読韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。	△		◎
韓国語Ⅱ(基礎) B134-148-12	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。「読韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。	△		◎
韓国語Ⅲ(読解) B234-148-21	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象にし、レベルアップした基礎文法を学ぶ。コミュニケーションの訓練とともに、文法と構文の理解、表現力を身につける。また、旅行やビジネス場面でよく使われる表現を学ぶ。	韓国語の基礎文法を踏まえ、より豊かな基礎会話力を養うことを目標にする。徐々に語彙・文法項目を増やしていき、韓国語で書かれた文章に対する理解力を高める。	△		◎

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
韓国語Ⅳ(読解) B234-148-22	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人を対象にし、中級を目指して実践的な表現を学ぶ。定型表現の学習は、ものの描写、要求・依頼・主張など様々な場面にふさわしい構文と語彙を習得し、言語運用力を養う。	中級レベルの文法や語彙を学び、韓国語としてより自然で円滑なコミュニケーションができるようにする。より豊かな言語表現力を養い、韓国語文章に対する「読む・書く」能力の上達を目標とする。	△		◎
韓国語Ⅲ(表現) B234-148-31	文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基本文法の作り方を練習する。そのために、基本文法と単語の学習を行う。これに基づいて、実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。	△		◎
韓国語Ⅳ(表現) B234-148-32	韓国語の文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基礎的な文の作り方を練習する。そのために、基本文法と基礎単語の学習を行う。実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。	△		◎
韓国語Ⅲ(総合) B234-148-41	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学生を対象にし、ハングル検定試験5級に合格するために必要な発音の仕組み、基本文法などを学習していく。文法事項や語句、日常会話文等を繰り返し練習し、ハングル検定試験5級合格に必要な基本的な能力を身につける。	基本文法については韓国語Ⅰ・Ⅱで学習した復習から始め、ハングル検定試験5級合格のために必要な発音と文法を学び、自ら学習できるようにする。基本文法と語句、日常会話文などの反復学習を通して習得していく。また練習問題と課題を通して、その定着と更なる応用発展を図る。	△		◎
韓国語Ⅳ(総合) B234-148-42	ハングル検定試験5級に合格するため、基本文法、語句、日常会話文などを学習する。また11月に実施されるハングル検定試験に向けて実際の過去問を用いて練習する。適宜、試験に必要な発音や文法、語彙に関する解説を行う。	ハングル検定試験5級に合格する。あるいは5級に挑戦できる能力を身につけることを目標とする。すでに5級を取得した学生にとっても、次のステップアップにつながる足場を固める場となることを目標とする。	△		◎
韓国語会話Ⅰ B234-148-51	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみるにより、積極的に話す機会を与える。	ハンガルの読み書きが確実にできるようにする。基礎的な文法を身につけ、あいさつ、自己紹介、身の回りのことについて自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようにする。	△		◎
韓国語会話Ⅱ B234-148-52	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみるにより、積極的に話す機会を与える。	約700個の単語をもとに、初級レベルに必要な会話のスキルを身につけるようにする。その上で日本語とは異なる韓国語特有の会話の仕方を学習し、その背景にある文化についても考察できるようにする。	△		◎
韓国語会話Ⅲ B234-148-53	ネイティブによる発展的韓国語演習	韓国語の日常的な会話で自己表現ができる。	△		◎
韓国語会話Ⅳ B234-148-54	ネイティブによる発展的韓国語演習	韓国語の発展的な様々な内容の会話で自己表現ができる。	△		◎
スペイン語Ⅰ(基礎) B134-149-11	初めて学ぶ人を対象にグローバル言語の1つであるスペイン語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。スペイン語の常用単語及び初歩的な文型を学び日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	スペイン語の常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な日常会話を使えるようにする。	△		◎
スペイン語Ⅱ(基礎) B134-149-12	スペイン語Ⅰ(基礎)で学んだスペイン語のさらなるステップアップを目指す。単語の理解や発音の習熟度をより高め、かつ使用できる文型を増やすことによって、スペイン語の運用能力を高める。	スペイン語の発音をより確実なものにし、多くの常用単語、重要文型を学び、初歩的なスペイン語運用能力を身につける。	△		◎

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
スペイン語Ⅲ(読解) B134-149-21	スペイン語Ⅰ、Ⅱを学んだ学生に向けた授業。過去形などさらにレベルアップした内容を学んでいく。	さまざまな時制を含むバリエーションに富んだ文章が理解できるようになる。	△		◎
スペイン語Ⅳ(読解) B134-149-22	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学んだ学生に向けた授業。比較表現や命令形など、幅広い種類の文章に慣れる。	辞書を使ってやや長い文章が理解できるようになる。	△		◎
スペイン語Ⅲ(表現) B134-149-31	スペイン語Ⅰ、Ⅱを学んだ学生に向けた授業。過去や未来の時制といった中級程度の内容を学ぶ。	あらゆる時制を使いこなし、自分の気持ちのある程度自由に表現できるようになる。	△		◎
スペイン語Ⅳ(表現) B134-149-32	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学んだ学生に向けた授業。比較表現や命令形など、表現の幅を広げていく。	辞書を使いながら、大きな支障なくコミュニケーションが取れるようになる。	△		◎
スペイン語Ⅲ(総合) B134-149-41	スペイン語Ⅰ、Ⅱを学んだ学生に向けた授業。過去形など中級程度の内容を学び、演習を多く行う。	会話や文字などさまざまな手段で、自分の気持ちのある程度自由に表現することができる。	△		◎
スペイン語Ⅳ(総合) B134-149-42	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学んだ学生に向けた授業。命令形や反実仮想といった上級レベルの表現を学ぶ。	辞書を使えば大きな支障なく相手とスムーズなやり取りができる。	△		◎
スペイン語会話Ⅰ B134-149-51	先生や学生どうしでのコミュニケーションを通して、正しい発音を身につけつつ挨拶など基礎的な表現を学ぶ。	挨拶、簡単な自己紹介、日常の動作といった基本的な表現を覚え、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。	△		◎
スペイン語会話Ⅱ B134-149-52	スペイン語会話Ⅰを履修した学生を対象に、嗜好や予定などさらにバリエーション豊かな表現を学ぶ。	繰り返し練習を重ね、辞書を使ってさらに複雑なコミュニケーションが取れるようになる。	△		◎
スポーツ科学Ⅰ B115-592-01	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	○	△	◎
スポーツ科学Ⅱ B115-592-02	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	○	△	◎
スポーツ科学Ⅲ B235-592-03	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」を目標とする。	○	△	◎
スポーツ科学Ⅳ B235-592-04	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」を目標とする。	○	△	◎
海外事情Ⅰ B139-852-01	カナダ、オーストラリア、イギリス、アメリカ、韓国、台湾の各国の提携校でホームステイ先や学生宿舎に滞在しながら、語学力を磨いたり現地の文化を経験したりする。	渡航先の大学で開講される授業やプログラムを通して、語学力を向上させる。幅広く異文化に触れることで、多様な価値観や考え方を理解できるようになる。	○		◎
海外事情Ⅱ B139-852-02	カナダ、オーストラリア、イギリス、アメリカ、韓国、台湾の各国の提携校でホームステイ先や学生宿舎に滞在しながら、語学力を磨いたり現地の文化を経験したりする。	渡航先の大学で開講される授業やプログラムを通して、語学力を向上させる。幅広く異文化に触れることで、多様な価値観や考え方を理解できるようになる。	○		◎
海外事情Ⅲ B139-852-03	マレーシアの提携校で実施されるワークショップや文化交流に参加し、提携校の学生や各国の留学生と協力して共通の課題に向き合うことで、グローバル社会に役立つコミュニケーションと多文化共生に対する理解を深める。	研修先の学生や教員との交流を深めることで、現地の事情や文化への理解を深めることができる。研修先での国際経験を通じて、グローバル社会で活躍できる人材となる基礎を身につける。	○		◎

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
海外事情Ⅳ B139-852-04	マレーシアの提携校で実施されるワークショップや文化交流に参加し、提携校の学生や各国の留学生と協力して共通の課題に向き合うことで、グローバル社会に役立つコミュニケーションと多文化共生に対する理解を深める。	研修先の学生や教員との交流を深めることで、現地の事情や文化への理解を深めることができる。研修先での国際経験を通じて、グローバル社会で活躍できる人材となる基礎を身につける。	○		◎
心理学概論Ⅰ・Ⅱ P111-285-01 P111-285-02	心理学に関する知識を広く学習し、心理学の専門科目を学習する上での基礎を作る。	心理学に関する幅広い知識が身につけられる。関心のある心理学専門分野をみつけることができる。	○	◎	
心理学統計法Ⅰ・Ⅱ P111-285-03 P111-285-04	心理学実験の結果や心理検査心理尺度による調査結果の統計的分析の基礎的知識を学ぶ。	平均、分散などの基礎的概念を理解し計算方法を学ぶことができる。仮説検定の考え方を理解することができる。平均の差の検定など基礎的検定を理解し計算方法を身につけることができる。	△	◎	
認知心理学Ⅰ(知覚・認知心理学) P111-284-01	知覚、注意、記憶、情動などの外界情報の認識と利用に関する心の機能について学ぶ。また、隣接諸科学との関連性について把握することを目標とする。	外界情報を認識するための情報処理装置としてのヒトの認知機能を理解できる。他の心理学や隣接諸科学との関連性を理解できる。	◎	◎	
発達心理学Ⅰ P111-282-01	人の発達とは何かを学習し、対人支援等の基礎を形成する。	発達段階および各発達段階における特徴や課題を理解する。生涯発達についての視点を形成する。	◎	◎	○
人格心理学Ⅰ(感情・人格心理学) P211-283-01	人格心理学の諸理論について理解を深める。	人格の多様性、複雑性について理解できるようになる。	◎	◎	○
社会心理学Ⅰ(社会・集団・家族心理学) P211-281-01	社会的存在としての人間を理解するために、社会場面での人間の認知・行動について理解を深める。	集団の特性や力学等を学習し、人間個人という視点だけでなく集団という視点を形成し、人間理解を深める。		◎	○
ストレスマネジメント入門 P211-283-02	ストレスが起こる原因、症状について概説する。その中でもメンタルヘルスの問題に注目し、ストレスによって起こりやすい心理的な疾患についての理解を深める	ストレスが起こる原因、症状、ストレスマネジメントについて理解を深める。	◎	◎	◎
心理学研究法 P311-285-05	科学としての心理学を理解し、方法論の基礎的概念(実験法や調査法など)と具体的方法を学習する。	春学期は主として統計的検定の基礎的概念を学び、調査の具体的手続きを理解できるようになる。秋学期は主として実験法の具体的な手順を理解し、さらに、臨床心理学的アプローチの具体的方法について説明できるようになる。質問紙調査法と分析結果の検討方法や考察方法を理解させる。	○	◎	
学習・言語心理学 P131-284-02	学習心理学とは行動の原因と結果の結びつきを知る学問である。学習の仕組み、その歴史的背景について理解する。	学習によってもたらされる行動の変化と、その背後にある仕組みを理解し、学習心理学によって培われた知見や技術が日常の様々な場面で応用され役立てられていることを説明できるようになる。また、ヒトの言語の発達と概念の獲得について論じることができる。		◎	
認知心理学Ⅱ P231-284-03	記憶の特徴について解説し、情動、言語、意思決定などいくつかの心理的機能と記憶システムとの関連性について学ぶ。	短期記憶と長期記憶のしくみを説明することができる。情動、言語、意思決定などの認知機能と記憶との相互作用について理解できるようになる。認知機能に対応する神経機構を説明することができる。	◎	◎	△
発達心理学Ⅱ P231-282-02	発達心理学の重要な理論(エリクソンのアイデンティティ理論、ボウルビイの愛着理論、感情の発達、脳の発達、遺伝と発達)を取りあげる。人間の発達について多面的に考えることができるようになることを目的としている。	発達心理学の重要な概念を理解できる。代表的な理論について、その理論的背景、心理学における意義を説明できる。	◎	◎	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
人格心理学Ⅱ P231-283-03	人格の理解を事例を通し理解を深める。	人格の多様性とその統合について実際のケースを検討することで人格心理学の基礎を理解できるようになる。	○	◎	○
社会心理学Ⅱ P231-281-02	社会的存在としての人間を理解するために、社会場面での人間の認知・行動について理解を深める。	集団の特性や力学等を学習し、人間個人という視点だけでなく集団という視点を形成し、人間理解を深める。		◎	○
生理学Ⅰ (人体の構造と機能及び疾病) P231-482-01	ヒトの各機能の発達と障害について、医学的・生物学的側面から理解する。	人体の構造と機能について学び、発達障害の病態と支援法を理解できるようになる。		◎	
生理学Ⅱ P231-482-02	本科目は、ヒトの機能の発達とその障害の概要について医学的・生物学的側面から理解することを目的とする。主に身体障害児の生理・病態を理解するために必要な脳・神経系をはじめとする身体の構造と機能、発生・発達段階にみられる障害を引き起こす要因と主な発達期に見られる身体障害の病態と合併する障害、障害児・者の心理社会的に必要な支援などについて解説する。さらに、身体的な障害を中心に解説し、発達期にみられる機能障害の克服に必要な機能回復のための訓練の基本的な考え方について摂食・嚥下機能障害を例として、機能の発達に遅れのある子どもたちに必要な支援の基本について学ぶ。	身体の構造と機能の概要について説明できる。脳・神経系の基本的構造と脳活動の研究法、睡眠と概日リズム、自律神経系のしくみについて分かりやすく説明できるようになる。また、高次脳機能障害の評価方法およびその代表的な症例について説明できるようになる。		◎	
神経・生理心理学 P331-284-04	心理的活動に伴って変化する脳波や心電図などの生体信号の測定、神経系への作用(破壊、薬物)による行動変容を観察することを学ぶことを目的とする。	生理心理学の具体的な研究手法を説明することができる。脳波や心電図など各種生理指標の測定技法や分析法の仕組みを理解し具体的に説明することができる。生理指標を用いた心理学的な実験を計画することができる。		◎	
生理心理学 P331-284-05	脳神経の構造などの生理学的基礎、知覚、記憶、学習などの心理機能に関連する生理メカニズム、臨床や睡眠など様々な心理学の諸領域における生理心理学的理解、情動研究などにおける生理指標の測定原理・適用範囲について学び、生理心理学の全般的理解を目指す。	脳神経の構造や機能を理解し、簡潔にそれを理解できるようになること。知覚、記憶、学習などに関わる生理メカニズムを理解し、簡潔にそれを説明できるようになること。精神疾患に関わる脳機能の特徴を理解し、向精神薬の薬理作用の点も含めて説明できるようになること。生理測定を伴う研究の案を的確に立てられるようになること。		◎	
心理学史 P331-286-01	哲学から始まった心理学史を学習し、現代心理学そして心理学の今後について考えを深める。	心理学史の流れについて把握し、現代心理学各分野の現状について理解できるようになる。	○	◎	
スポーツ心理学 P331-592-01	運動に関与する認知的な情報処理過程、心理的コンディショニング、スポーツ活動のメンタルヘルス機能について解説し、応用心理学としての役割を理解する。	スポーツ活動中に惹起される情報処理過程について考察し、知覚—運動の連動性を理解できる。スポーツ活動が持つ心理的な健康維持機能について学び、その応用可能性を論じられる。	○	◎	○
ポジティブ心理学 P331-286-02	ポジティブ心理学とは、人にとって良いこととは何かという問いを追求しようとして提唱されたものである。ポジティブ心理学の基本的考え、歴史、理論、実証研究を理解する。	ポジティブ心理学に関する重要な理論について理解し、説明することができる。自分・他者の人生をよりポジティブなものに導くために応用することができることを目的とする。	◎	◎	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ			心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)		
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
カレントトピックスa P331-284-06	脳を中心とした身体システムは心の営みと密接に関連する。本講義では、感情に関する諸現象に焦点を当て、心と身体の間連性についての理解を深めることを目指す。生理心理学の基礎について概観した後、最新の心理学・認知科学研究を通して、感情に関わる生理現象の神経メカニズムとそのはたらきについて論じる。さらに、感情に伴う身体反応や認知機能の変容を通して、環境変化に優れた人間の適応力について考察する。	感情に関わる様々な生理現象の神経メカニズムとそのはたらきを理解することができる・最新の生理心理学的研究を読み解くことができる・心と身体の間相互作用について理解し、人間の優れた適応力について説明することができる	○	◎	
カレントトピックスb P331-284-07	日常ではしばしば身体反応の変化が心のはたらきと密接に結びついていることを経験する。これらの多くはストレスに関連した現象でもある。本講義では、ストレスに関する諸現象に焦点を当て、心と身体の間連性についての理解を深めることを目指す。はじめに生理心理学の基礎について概観した後、最新の心理学・認知科学研究を通して、ストレスの神経メカニズムとそのはたらきについて論じる。	ストレスに関わる様々な生理現象の神経メカニズムとそのはたらきを理解することができる・最新の生理心理学的研究を読み解くことができる・心と身体の間相互作用について理解し、人間の優れた適応力について説明することができる	○	◎	○
カレントトピックスc P331-283-04	深層心理学について理解を深めることを目標とする。臨床心理学での治療理論について精神分析・来談者中心療法・認知行動療法・分析心理学などについて、これまで学んできたことの再整理を行い、臨床実務において上記の考え方がどのように使われているか実践的に学んでいく。	臨床心理学の実務家としての基礎能力に関わる知識・態度を実践に即して身につけることができるようになる。	◎	○	○
カレントトピックスd P331-283-05	臨床実務論について概説する。臨床心理学の専門職の実務で求められる課題について、特に個人心理療法の治療関係において共有されるイメージ素材をもとに、個人心理療法での具体的な見立てや病理理解・治療プロセスなどについて理解を深める。様々な実務領域での素材について検討・概説を加える方向を重視してゆく場合もある。重視してゆく場合もある。	様々なイメージ表現を吟味しながら、青年期の苦しさを授業のなかでも追体験して考え、その臨床心理学的な課題について実践的・実感的に理解を深めることができるようになる。	◎	○	○
カレントトピックスe P331-286-03	心理学および隣接諸科学を含めた学際的領域の最新のトピックスを取り上げ、社会貢献としての心理学の役割を考察する。本講義は、教員の専門性を活かし、心理学的支援分野、多文化共生分野、情報・ビジネス分野の枠組みに捉われない発展講義として位置付ける。	心理学における多様な視点を持ち、ヒトのこのころの特性を俯瞰的に見ていくことができる。		◎	
カレントトピックスf P331-286-04	心理学および隣接諸科学を含めた学際的領域の最新のトピックスを取り上げ、社会貢献としての心理学の役割を考察する。本講義は、教員の専門性を活かし、心理学的支援分野、多文化共生分野、情報・ビジネス分野の枠組みに捉われない発展講義として位置付ける。	心理学における多様な視点を持ち、ヒトのこのころの特性を俯瞰的に見ていくことができる。		◎	
インターンシップ P331-861-01	企業や役所などで就業体験を行うことを通じ、「働くこと」の意義を学ぶことを目的とする。	事前研修・訪問、事後の報告会を実施することにより、研修の成果を深め、キャリア・ビジョンを明確にすることができるようになる。	○	◎	○
調査法Ⅰ・Ⅱ P232-842-01 P232-842-02	調査法Ⅰ、Ⅱでは、調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習し、調査の技法を習得する。	調査法の基本的な考え(調査法とは、調査倫理、資料の利用方法、分析の手法、報告書の書き方など)を理解し、調査の立案から調査票の作成までの技法を習得する。	◎	◎	

心理学部心理学科 カリキュラムマップ			心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)		
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
ストレスマネジメント演習Ⅰ P332-284-08	本講義は、自律神経活動に関わる生体反応をバイオフィードバックによってコントロールする手法について理解し、これによって生まれる臨床的効果(不安やうつ状態の低減)の可能性について学習する。	ストレス反応が自律神経と関係しながら生じていること、さらに、そのような反応がバイオフィードバックによって調整できることが理解できるようになる。	◎	◎	◎
ストレスマネジメント演習Ⅱ P332-283-06	本授業は、ストレスマネジメントの理論を学習していることを前提に、実技演習を中心にストレスマネジメントの具体的な手法としての臨床動作法を学習する。	臨床動作法の基本について理解する。	◎	◎	◎
臨床心理学Ⅰ(臨床心理学概論) P231-283-07	臨床心理学の成り立ちや方法論について概観し、より専門的な科目(臨床心理関連の特殊講義や演習など)に繋げるための基礎的知識の定着をねらいとする。	発達段階ごとにテーマとなる課題や「こころの問題」に対する臨床心理学的なアプローチについて学ぶ。「こころの問題」に対する支援(援助)のための基本姿勢を理解できるようになる。	◎	◎	◎
多職種連携論 P231-262-01	本講義では、地域で暮らす人々の尊厳の保持と自立生活の実現のために医療・福祉・心理関係機関が連携し、包括的かつ継続的な支援を当事者並びにその家族提供できるサービス提供体制の構築(地域包括ケアシステム)について学習することを目的とする。多種多様な専門性を持つ職種が個々の高い専門性を基盤に、当事者並びにその家族への支援の目的と情報を共有し、各専門性を活かした支援の分担の在り方と効果、相互協力と連携を行うことの意義と実践を学ぶ。	医療・福祉・心理の支援場面での多職種連携の必要性理解し、その役割について具体的に述べることができる。専門職独自の専門性を活かした支援の分担の在り方と効果、相互協力と連携を行うことの意義と実践方法を展開できる。	◎	◎	◎
健康・医療心理学 P231-283-08	精神疾患の予防、治療、リハビリテーションや精神的健康の維持・増進について理解し、それらに関する施策や保健活動についての基礎的知識の定着をねらう。	専門職(医療保健・福祉・教育)に必要な精神保健の基礎・こころの健康を学び、具体的なアプローチの方法を理解できるようになる。	◎	◎	◎
臨床心理学Ⅱ(心理学的支援法) P331-283-09	臨床心理学を概観し、より専門的な科目(臨床心理関連の特殊講義や演習など)に繋げるための基礎的知識の定着をねらう。	臨床心理学の基礎的知識(歴史、各種理論、適応の問題、主な心理査定・心理療法の内容など)を学び、それぞれの内容が理解できるようにする。	◎	◎	◎
司法・犯罪心理学 P331-283-10	犯罪の人間学、臨床心理学的接近の特異性、少年の凶悪犯罪と矯正、精神鑑定と心理鑑定、反社会的パーソナリティ障害と精神病質人格、発達障害、犯罪被害者の問題等々を扱う。	犯罪・非行の発生に関連する要因を理解し、説明することができる。	◎	◎	○
精神疾患とその治療 P331-283-11	精神医療の現場において、各疾患に対し、どのような心理療法的アプローチが行われているかを知る。	精神医学と臨床心理学の異同について説明できる。その上で、代表的な疾患についてどのような臨床像を呈するか理解し、どのような心理療法的介入が可能であるか理解する。	◎	◎	◎
発展講義a P331-282-03	この授業では、乳幼児の発達特徴を領域ごとに学び、乳幼児の行動について具体例をもとに理解を深める。乳幼児は、誕生直後から自分を取り巻く環境と向き合い、人とのコミュニケーションを通して情緒、言葉、社会性を伸ばしていく。そのプロセスと、どのような周りの関りが必要であるかを学ぶ。	発達段階初期の重要性と対人対応の方法を学ぶことで、それらの説明や実際の支援ができるようになる。	◎	◎	◎
発展講義b P331-283-13	心理療法とは、心理的問題を抱える患者やクライアントの、認知・行動・感情・身体感覚に変化を起こさせ、症状や問題行動を消去もしくは軽減することをめざすことである。本講義ではいくつかの心理療法に焦点を絞って、個々の理論的背景と適用事例について触れていくことにより、その療法の特徴について理解することを旨とする。	心理療法の種類や理論的背景について理解する。		◎	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
心理検査演習 I P332-283-14	ビネー式、ウェックスラー式(WAIS・WISC)などの知能検査のほか、老人の認知症の観察をする長谷川式簡易知能評価スケールなども取り上げる。また、特殊能力検査として、職業適性検査、作業能力をみる内田クレペリン精神作業検査法を、さらに、性格傾向や心の状態を知るための人格検査として、質問紙法(P-G検査, MMPI, CMIなど)および投影法(ロールシャッハテスト, TAT, PFスタディ, SCT, 描画テストなど)を取り上げ、概説する。	様々な心理検査について、目的、内容、分析方法などの概要を説明できる。	◎	◎	
心理検査演習 II P332-283-15	心理的アセスメントの初歩について、臨床実務の経験を踏まえ概説する。投影法は心理師として必須の心理検査であり、最も習得が困難であるとされているロールシャッハ・テストの施行法、分析法、解釈法などについて演習形式で学習をすすめ、最終的には、受講生が実施した事例を検討することで、より臨床的な理解を深めていく。	心理的アセスメントについての基本を習得する、ロールシャッハ・テストが正確に施行できる、ロールシャッハ・テストの分析法と解釈法の基本を身につける、ロールシャッハ・テストの所見書を適切に作成できることを目標とする。		◎	
面接法・介入法(心理的アセスメント) P332-283-16	臨床心理学の基礎知識や臨床心理面接の具体的な技法などについて解説する。その中でも、Iveyのマイクロカウンセリングについて詳しく取り上げる。Iveyは「どんなカウンセリングであれ、共通な技法がある」と考えた。講義では、ロールプレイやグループワークなどを通して学んでもらう。	カウンセリングの基本を身につける。	◎	◎	◎
人格・臨床心理学演習 I・II P332-283-17 P332-283-18	本演習では、心理療法の分野において心理査定・治療技法として用いられている諸技法を体験する。まず導入として感受性訓練を行い、諸技法の体験に入る前のウォーミングアップを行なう。ついで、描画法を中心とした諸技法(コラージュ法、スクイグル法、円枠家族画法、雨中人物画法など)を、実際に体験しながら学んでいく。	自らを表現し、内面を知る楽しさ・困難さを味わいつつ、臨床の場で、諸技法を用いてクライアントに心理療法的関わりをしていく際に重要となる、基本的な態度を身につけていく。セラピスト側の感情体験がいかに重要であるかについて理解を深める。		◎	
文化心理学 P231-281-03	文化心理学では、人の価値観や物の見方を、社会生態学的環境や宗教・倫理的背景などによって影響を受けるものと位置づける。すなわち、人の心の働きは文化を反映して成立しているといえる。この授業では、自分自身についての捉え方、ものの考え方、意思決定の方法、他者との繋がり方、感情経験の程度や種類など個人のミクロな心理的活動について、文化というマクロな社会現象と相互作用する中で形成されていることを学習する。人の心理的活動を理解する中で、文化を切り離すことができないという視点から、心理学の学問知識への理解を深める。	文化心理学とは何かを理解する。自分自身についての捉え方、ものの考え方、意思決定の方法、他者との繋がり方、感情経験の程度や種類など個人のミクロな心理的活動と文化というマクロな社会現象との相互作用について理解する。	○	◎	
障害者・障害児心理学 P231-283-19	障害のある人々の心理的・行動的特性について学び、自立・社会参加を目指した支援のための基礎的な知識を習得する。また、障害のある人々ひとりひとりの特性に応じた支援について考え、支援に携わる者としての基本的な心構えを身に付ける。	障害について深く理解し、障害のある人の自立や社会参加について思案できる。また、身近な支援者として具体的な支援の仕方を考え、実践できる。		◎	
教育心理学 I(教育・学校心理学) P231-282-04	本授業の目標は、親として、子どもを教育するために、さらに自分自身の生涯学習に必要な基礎的な知識を学ぶことである。	基礎的な教育心理学の理論(発達のみかた、学習の諸相、教育場面での個人差など)や知見を理解できるようになる。	◎	◎	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
教育心理学Ⅱ P231-282-05	青年期から高齢期までに関わる重要な人間関係について焦点を当て、人間の生涯を理解するための知識を学ぶ。	日常的に経験する出来事について教育心理学的視点から自分なりに考察できるようになる。	◎	◎	○
障害者教育総論 P231-276-01	本講義は、障害がある子どもの教育に関する基本的な知識の獲得を目的とする。講義の前半では、障害の捉え方、障害児教育の歴史と近年の動向、日本における特別支援教育の仕組み、医療や福祉、地域との連携について学ぶ。講義の後半では、障害ごとの特性や障害がある子どもが教育を受けるために必要とする支援について学ぶ。	障害の社会モデルや合理的配慮の考え方が説明できる・障害ごとの特徴と必要とする支援を説明できる・障害がある児童生徒への支援方法を提案できる	◎	◎	
肢体不自由者の自立活動の理論と実際 P231-276-02	本授業は、脳性麻痺等肢体不自由児者の自立活動について、その理論を講義・討論し、支援法の実践を演習する。自立活動については、文部科学省が特別支援教育において定める「自立活動」の概要把握と理解を深めるだけでなく、障害者にとっての「自立」とは何か等の自立活動支援に向けての根源的理解を深めることを目的とする。そのために、アクティブラーニングの手法を用いて、既成の枠に捕らわれずに創造的概念構成をするための討論やロールプレイング等を実施する。	脳性麻痺等肢体不自由児者の自立活動について、理論、支援法を理解し、説明できる。	◎	◎	○
肢体不自由者の心理・生理・病理 P231-276-03	本授業では、肢体不自由児者の心理・生理・病理について理解を深め、障害児者への適切な支援を行う基礎を形成することを目的とする。肢体不自由児者の心理・生理・病理については、いわゆる一般論を学修するとともに、各種事例を通して、生活支援・教育支援等における支援の実践や特殊例についても学修する。なお、本授業は、単なる講義ではなく、小グループによるアクティブラーニングを行い、肢体不自由児者の特殊なニーズ・人としての共通なニーズに対する創造的支援法を考えることも目的とする。肢体不自由者の生理・病理について、支援に必要な基礎的な知識を学ぶ。生理については、感覚器官の仕組み、運動神経経路などについて学び、病理については代表的なもの(身体障害と運動障害、重症心身障害児、脳性麻痺など)について理解し、具体的な支援方法を学ぶ。	肢体不自由者の生理・病理について、支援に必要な基礎的な知識を身につける。生理については、感覚器官の仕組み、運動神経経路などについて、病理については代表的なもの(身体障害と運動障害、重症心身障害児、脳性麻痺など)について理解する。	◎	◎	○
知的障害児指導法 P231-276-04	本講義では、知的障害のある子どもたちの心理的・行動的特性について、また、子どもと関わるうえで欠かせない実践的なスキル等について学ぶ。特別支援教育や心理支援に携わる者としての心構えや、子ども一人ひとりの特徴に合わせた指導法について学ぶが、知識を深めるだけでなく、支援者としての基本的な姿勢を育み、状況に応じて柔軟に行動する力を養うことも重視している。	知的障害のある子どもの心理的・行動的特性について理解し、適切な配慮ができる・障害のある子どもへの適切な支援方法について理解し、実践できる	◎	○	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ			心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)		
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
異文化理解 P331-281-04	「異文化」と呼ばれる対象は、国や民族が異なる地域や集団に限定されるものではなく、自らが所属する集団外に様々な階層性や大きさをもって存在する。この授業では、身近な生活の中に存在する異文化を認識することから始め、社会で生活する人々を集団として分類することの意味やその影響について心理学的に考察する。「異なる」集団について理解する中で、自己とのかかわり方や集団間の関係性を見直すことを目的とする。授業を通して多様な価値観を理解し、様々な集団が社会的に共存するために有効となる心理学的工夫についても学ぶ。	身近な生活の中に存在する多様な価値観を認識し、理解するための心理学的方法を身に着ける。異なる集団との自己との関わり方、社会で共存するための工夫について考える力をつける。	◎	◎	○
ケアマネジメント P331-262-02	本講義は、地域社会で人々が自立した生活を送るための包括的支援であるケアマネジメントの理論と実践について学修することを目的とする。具体的には、年齢(加齢も含む)、疾病や障害などの身体的、経済的、社会的要因から医療・保健・福祉のニーズを必要とする幅広い対象者の生活全般における多様なニーズへの具体的支援手法を学ぶ。また、当事者とその家族、支える医療福祉心理専門職の役割、地域住民へのリテラシー向上への具体的取り組みについても学ぶ。	ケアマネジメントの理論と実践を学ぶことで生活全般における支援が必要な対象者への包括的アプローチの手法の展開ができる。ストレングスマデルの理解に基づき、事例に基づいたアセスメントとケアプランを作成できる。	◎	○	◎
発展講義c P331-282-06	急速な高齢化が進む現代において老年期における心理的支援のニーズが高まっている。一方で認知症やフレイルなどの問題への対応も迫られている。本講義では、老年期の理解・対応・支援に役立つ心理学的視点について学ぶ。	高齢者の心理、老年期に生じやすい精神疾患および心理的問題に関する正しい知識を修得し、高齢者一人一人に対する心理学的支援方法を理解し、説明できることを到達目標とする。	◎	◎	
発展講義d P331-282-07	青年の発達と青年の生きる文脈との関係を理解し、青年期にあたる自分自身への理解を深めることを目的とする。	青年心理学の実証研究について、自分自身の観点から考察が出来るようになることを目指す。授業でとりあげるテーマに関連する研究論文や研究論文や心理尺度を実施し結果やその考察をレポートできるようにする。	◎	◎	◎
発展講義e P331-281-05	社会的存在としての人間を理解するために、社会場面での人間の認知について論じていく。人種、世代間の違いにより我が国における価値観は多様化しているといえる。その多様な社会の中で幅広いもの見方ができる能力を養い、自分の生活においてそれらの能力を役立てる方法を考えていく。本講義では態度の構造、ステレオタイプ、感情と認知、文化や進化との相互作用について論じ、社会的認知の特性を理解し、多様な社会における人間の対人行動に対する幅広いもの見方ができることを目指す。	態度の構造、ステレオタイプ、感情と認知、文化や進化との相互作用について理解できる。	○	◎	

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
発展講義f P331-281-06	社会的存在としての人間を理解するために、社会場面での人間の認知について論じていく。人種、世代間の違いにより我が国における価値観は多様化しているといえる。その多様な社会の中で幅広いもの見方ができる能力を養い、自分の生活においてそれらの能力を役立てる方法を考えていく。本講義では社会的認知のメカニズム、ヒューリスティック、ショートカット、推論、バイアスについて論じ、社会的認知の特性を理解し、多様な社会における人間の対人行動に対する幅広いもの見方ができることを目指す。	態度の構造、ステレオタイプ、感情と認知、文化や進化との相互作用について理解できる。	○	◎	
発展講義g P331-281-07	グローバル化やIT化が進む現代社会の生活において、様々な価値観を持った人々と柔軟にコミュニケーションを行う必要性が高まっている。この授業は、異なった文化的背景を持つ個人や集団間のコミュニケーションを通して、多様な価値観の存在への気づきを促すことを目的とする。授業内のワークショップやグループワークを通して、コミュニケーションの複雑さ・難しさへの認識を深める。文化心理学や異文化理解の知識を活かしながら、コミュニケーションのあり方を考察し、日常生活や臨床場面への応用を目指す。	言語／非言語コミュニケーションにおける文化差を理解する・状況や他者の立場を理解したコミュニケーションを実践できるようになる	◎	○	◎
発展講義h P331-284-09	本授業の目的は、ヒトも含めた動物の行動の多様性について知ることである。動物はその環境に応じて、求愛や子育てといった繁殖のための行動、攻撃や防衛など自分たちやそのなわばりを守るための戦略、そして周囲の環境の変化を知るための学習・認知の機能を発達させてきた。これらがいかなる進化を遂げ、今ある形となり、どのような機能を持つに至ったかを考察する。これについて実験や観察に基づいた研究を紹介しながら、授業を進めていく。	動物の行動の多様性について、進化、学習・認知の観点から理解する。	◎	◎	
発達・教育心理学演習 I P332-282-08	この授業では、子どもの発達支援、特に学校に関する場面で子どもの成長をどのように支えればよいかについて考える。現代の子どもは社会環境の変化などにより、特に学校ではこれまでとは異なる教育が必要になっている可能性がある。学校での問題や予防教育、スキル教育などの試みについて各自が調べながら考える。	児童期から青年期にかけての子どもを取り巻く問題や現状について知り、それらを解決もしくはサポートするために心理学からどのようなアプローチができるのかについて考察し、今後の自らの発達や次世代育成について生かすことができることを目標とする。	◎	◎	○
発達・教育心理学演習 II P332-282-09	「やる気」をめぐる悩みは、子ども、そして大人にとって、身近で重大な問題である。モチベーションすなわち動機づけは、教育心理学の主要な課題のひとつであり、今日までさまざまな理論や研究が積み重ねられている。本演習では、動機づけに関する主要な理論について学び、人間の「やる気」の面白さや複雑さについて考える。内発的動機づけ理論やフロー理論、達成目標理論など、国内外で数多く研究されてきた動機づけ理論について、受講者自身の体験や身近な例も踏まえながら、発表やディスカッションを通じて学ぶ。	動機づけの主要な理論について理解する。自分の主体的な経験と理論との結びつきを理解する。	◎	◎	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
社会・産業心理学演習Ⅰ P332-281-08	社会心理学、産業・組織心理学の基本的な知識を身につける。社会心理学では自己の諸側面として自己概念、自己開示、自己提示などを採り上げる。また、対人認知におけるさまざまなバイアス、たとえばステレオタイプなどに対する理解を深める。産業・組織心理学では、仕事への動機づけ、人事評価制度、人事測定の方法、採用、面接、職場の人間関係と意思決定などを採り上げる。	社会心理学、産業・組織心理学に関して科学的な研究手法、データの見方などに習熟できるようにする。		◎	
社会・産業心理学演習Ⅱ P332-281-09	社会・産業心理学演習Ⅰに引き続き、社会心理学、産業・組織心理学の基本的な知識を身につける。社会心理学では社会的情報処理、態度変容の精緻化見込みモデルを採り上げる。また、さまざまな人間関係、集団関演脚、とくに葛藤を扱う。また、文化心理学にもふれる。産業・組織心理学では、リーダーシップ、職場もストレスとメンタルヘルス。組織における協力や葛藤、仕事の能率と安全、ヒューマンエラー、キャリア、消費者行動などを採り上げる。	社会心理学、産業・組織心理学に関して科学的な研究手法、データの見方などに習熟できるようにする。		◎	
産業・組織心理学Ⅰ P231-281-10	産業・組織心理学の重要テーマである社会的パワー、リーダーシップについて解説する。社会的パワーはどのように把握できるのか、影響の与え方、しつけの文化差、パワーを志向するパーソナリティなどを採り上げる。また、リーダーシップ研究はどのように展開してきた、現在どのような展開が見られるのかについて解説する。特性論的アプローチ、状況論的アプローチ、そして特性論的アプローチの再評価、認知論的アプローチ、LMX、サーバントリーダーシップなどを採り上げる。	産業・組織心理学の基本的な知識を身につけ、組織内の現象について科学的に理解できる。		◎	
産業・組織心理学Ⅱ P231-281-11	まずは組織とは何であるのかについての理解を深める。集合、集団といった概念との違いについて理解する。その上で、組織において重要な意味をもつ社会的影響(組織における服従行動と少数者の影響)、集団凝集性、人間モデルの展開、モチベーション、キャリアについて解説する。あわせて職場における問題に対して必要な心理に関する支援、組織における人の行動についてもふれる。	産業・組織心理学の基本的な知識を身につけ、組織内の現象について科学的に理解できる。		◎	
データサイエンス入門 P231-603-01	スマートフォンの普及や、科学研究における計測技術や通信技術の発展により、近年では社会に蓄積されるデータは量・種類ともに飛躍的に増大している。データサイエンスは、それらのデータの処理、分析を行い、データの中から価値のある情報を引き出すことを目的とする学際的な領域である。本講義では、データサイエンスにおけるデータとは何か、それらのデータを用いてどのような情報を引き出すことができるのかについて、様々な領域におけるデータ分析の実際の例を通じて学ぶ。	データの活用方法のいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値が説明できる。データに共通する性質や、データを正しく扱うために必要な基礎的な知識を獲得する。複数の方法によるデータの可視化の方法を説明できる。	○	◎	

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
感性工学 P231-284-10	心理学が物作りに役立つことを学ぶ。物作りは、ややもすると物理的な性能向上ばかりに目が向けられがちである。そのような製品は、使う人の特性のことが考えられておらず、使い手のメリットが少ないことがある。感性工学とは、人の感性を物理的なデザイン要素に落とし込むことにより、感性に合った製品を設計する技術の学問である。この講義では、感性工学の基礎となるヒトの視覚特性、視覚特性の測定方法、感性工学の研究の実例を学ぶ。	感性工学とは何かを説明できるようになる・感性工学に関連する基礎知識であるヒトの視覚特性を説明できるようになる		◎	
消費者行動論 P231-281-12	本講義では、消費者の心理的、行動的側面～消費者の情報探索、情報取得、評価、意思決定、買行動等～に関する基礎的な理論や概念を習得し、消費者に対する深い洞察力を身につける。また、消費者行動に関する知見が「モノが売れるしくみづくり」としてのマーケティングにどのように活用されているかを理解するとともに、自らマーケティング戦略を策定する方法を学ぶ。	消費者行動論、サービス・マーケティング論、マーケティング・リサーチ論、広告論、といったマーケティング関連科目の内容を理解するための基礎的な知識を身につける。	○	◎	
製品評価の心理学 P331-286-05	製品評価は、製造業者にとって、製品の魅力を高めたり、製品を、使う人にとって価値の高いものにするために非常に重要な過程である。しかし、その評価方法には、いまだに大きな改善の余地があると考えられており、多くの企業が頭を悩ませている。そこでこの講義では、従来の評価方法の問題点、評価方法の研究の実例、評価の基盤となるヒトの視覚メカニズムについて学ぶ。	製品評価の価値を説明できるようになる・製品評価のより良い方法を説明できるようになる・より良い製品評価の基盤となる、ヒトの視覚メカニズムを説明できるようになる		◎	
多変量解析 I P331-603-02	卒論作成に役立つ具体的なデータ解析の方法の概要を解説し、卒論に応用できるようにすることを旨とする。単なる統計ソフトの学習に留まらず、方法の基礎にある仮定や理論に関する初歩的知識を学ぶことを主眼とする。この授業では、心理学統計法のさらなる応用のために発展的な方法としてノンパラメトリック検定や因子分析を取りあげ、具体例と演習を中心に解説する。	心理学研究に用いる量的・質的なデータに関する具体的な検定・解析の方法の基礎概念を理解し、それぞれの方法を説明できる。多変量データについて、適切な分析方法を選択するための理由を述べる事ができる。心理測定のためのデータ解析の基礎を理解する。	△	◎	
多変量解析 II P331-603-03	多変量解析Iに引き続き、心理学研究に役立つ具体的なデータ解析の方法の概要を解説し、心理学研究に応用するための統計学の知識を得ることを目的とする。方法の基礎にある仮定や理論に関する発展的な知識を学ぶことを主眼とする。重回帰分析や構造方程式モデリング、ベイズ統計を中心として取り上げ、具体例と演習を中心に解説する。	心理学研究に用いる具体的なデータ解析の方法の基礎的な概念を理解し、それぞれの解析方法を説明できる。適切な分析方法を選択するための理由を述べる事ができる。多変量解析の基礎を理解し、因果関係の検証方法を身に着ける。	△	◎	

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
行動経済学 P331-281-13	この講義では、行動経済学の基本的な内容を解説する。行動経済学は、従来の意思決定理論やゲーム理論に、実験的要素を加え、人間の意思決定におけるクセを理論に取り込むことで、実際の人間の行動を分析する分野である。そのため、講義ではまず、意思決定理論とゲーム理論の基本的内容を解説し、そこから、プロスペクト理論や現在バイアスといった、人間の意思決定におけるクセを取り入れていく。それにより、合理的な意思決定からずれる人間の行動を予測することや、また、ナッジと呼ばれる人の行動をより良いものにする仕組みを理解していく。	行動経済学の概要および心理学との関連性を理解すると同時に、ゲーム理論、プロスペクト理論などからヒトの行動を読み解くことができる。	○	◎	
発展講義 P331-286-06	私たちを取り巻く身近な住環境、すなわち、生活の基盤である住まいや学校、オフィス、街路などの空間の有り様が心身の健康に与える影響について事例を通して学んでいく。そのうえで、心身の健康が得られる快適な住環境のあり方を検討して提案できる力を養うことを目標とする。	住まいに求められる機能の種類と特徴を理解し、自らの言葉で表現できる。快適な音環境とはどのような環境を指すのかを理解し、自らの言葉で表現できる。色彩が人間に与える心理的な因子について理解し、自らの言葉で表現できる。子どもが関わる空間(住まい、学校、遊び場等)の現状を理解し、望ましい空間のあり方について提案することができる。快適なまち(公園、街路、景観など)をつくっていくために必要な因子を理解し、自らの言葉で表現できる。	○	◎	◎
発展講義 P331-284-11	私たちを取り巻く環境において、生活をサポートする様々な技術が活用されている。これらの形態は人の情報の獲得と処理と無関係ではなく、私たちの行動や認知の機能の特性を配慮した設計やデザインが施されている。本講義では自動車、製品表示、電化製品など様々な技術を取り上げ、認知機能の特性がこれらの技術開発にどのように影響しているのかについて解説する。なお本講義は、社会動向の変化に対して柔軟に対応する情報・ビジネス分野の発展講義として位置付ける。	人の認知機能の特性が様々な製品における技術開発とどのように影響しているのかについて理解する。	◎	◎	
実験心理学演習 I P332-284-12	ヒトの心理的機能を評価するための計測手法の習得を目的とする。コンピュータを用いた行動計測では、心理学実験プログラムによる反応時間やエラーの分析を行う。生体反応信号として重心軌跡動揺、視線計測、脳波を用いた評価方法を習得する。そしてこれらの計測方法の応用可能性について議論し、計測のための実験計画の立案を行う。	ヒトの心理的機能を評価するための計測手法の習得を目的とする	○	◎	○
実験心理学演習 II P332-284-13	本演習ではPythonやProcessingを使って、計測のためのプログラミング言語を習得する。これらの言語は初学者にも学びやすいプログラミング言語の1つとして知られ、心理学、機械学習(AI)など様々な研究分野で利用されている言語である。各講義にてプログラミングの基礎や文法について理解し、それらを利用したプログラムの実装を体験していく。	プログラミング言語により画像・音声処理、反応時間の計測、データ取得をすることができる。さらにマイコンボードと様々なセンサーを活用し、多様な行動反応の取得する技術を習得する。	△	◎	

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
情報ビジネス心理学演習 I P332-603-04	Rは統計解析に特化したプログラミング言語の一つで、学術研究への利用のほか、ビッグデータへの注目などから近年ではビジネスシーンでの利用も増えてきている。本演習では、Rを用いたデータ分析の基本を演習形式で学ぶ。Rのプログラミング言語としての基本的な性質を理解し、データの前処理やデータの可視化など分析に必須の技能を身につけるとともに、実際のデータ分析の文脈に応じて、データから価値ある情報を引き出す技術の習得を目指す。	Rを用いて、応用的な統計解析を行うことができる。機械学習の基礎に関する知識を獲得し、ソフトウェアなどを用いた解析方法を選択することができる。適切なグラフや表を作成し、説明することができる。	△	◎	
情報ビジネス心理学演習 II P332-603-05	Pythonは汎用的なプログラミング言語の一つで、学術研究への利用のほか、近年では機械学習や人工知能(AI)などへの注目もあり、ビジネスシーンでの利用も多い。本演習では、プログラミングの初学者を対象にPythonを用いたプログラミングを演習形式で学ぶ。Pythonのプログラムの基本的性質を理解し、プログラムの実行についての基本操作を身につけるとともに、機械学習のプログラムを自分で実行してみることを通じて、機械学習の基礎的な理解を目指す。	Pythonを用いて、基礎的な統計解析を行うことができる。機械学習の基礎に関する知識を獲得し、ソフトウェアなどを用いた解析ができる。適切なグラフや表を作成し、得られた結果を説明することができる。	△	◎	
デジタルデザイン演習 P332-842-03	近年、バーチャルリアリティ (VR;仮想現実) や拡張現実(AR)の技術が急速に発展し、私達の日常生活に広がりつつある。また、これらの技術を使うことも容易になりつつある。VRやARは様々な心理的効果を生み出すことが分かりつつある。そこでデジタルデザイン演習では、仮想世界を容易に作成可能なUnityというゲームエンジンを使い、簡単な仮想世界を作成することで、今後更に広がるであろうVRやARへの理解を深める。	VRやARを説明できるようになる・VRやARが生み出す心理的効果を明らかにする研究につながる、簡単な仮想世界を作成できるようになる		◎	
心理学実験 I・II P213-284-14 P213-284-15	心理学実験Iではヒトの知覚や記憶、社会的認知などの心の働きについて、実験を通じて学んでいくことを目的とする。8つのテーマ(精神物理学的測定法、視覚探索、記憶の二重貯蔵モデル、ストループ効果、注意の資源、パーソナルスペース、シナリオ実験、鏡映描写)のうち4つのテーマを取り上げ、科学としての心理学研究法の基礎を学ぶ。さらに測定データの統計分析を行い、分析結果に基づいた実験レポートのまとめ方の習得を目指す。	心理学の科学的な研究方法について理解し、データ収集の方法、分析手法、分析結果のまとめ方を身につける。		◎	
プレセミナー P312-842-04	研究活動の基盤となる専門分野の知識、興味関心を深め、研究計画の立案を行う。個人またはグループで関心のあるテーマに関連する専門書籍や学術論文を精読し、それらの情報をまとめたプレゼンテーションを行う。そしてディスカッションを通じて、研究計画の再考を繰り返し、実現性の高い研究計画を構築していくことを目指す。このような過程を繰り返し実施することにより、論理的思考力や問題解決能力を身につける。また同時に、これまでの心理学実験実習、専門プレゼミ、心理学統計法で修得した知識や技能を整理し、研究遂行に必要な技術、材料等を整えていく。	研究計画の立案ができる。専門書籍や学術論文が精読できる。プレゼンテーションの技術を身につける。論理的思考力や問題解決能力を身につける	◎	◎	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
総合研究演習Ⅰ P312-842-05	研究活動の基盤となる専門分野の知識、興味関心を深め、研究計画の立案を行う。個人またはグループで関心のあるテーマに関連する専門書籍や学術論文を精読し、それらの情報をまとめたプレゼンテーションを行う。そしてディスカッションを通じて、研究計画の再考を繰り返し、実現性の高い研究計画を構築していくことを目指す。このような過程を繰り返し実施することにより、論理的思考力や問題解決能力を身につける。また同時に、これまでの心理学実験実習、専門プレゼミ、心理学統計法で修得した知識や技能を整理し、研究遂行に必要な技術、材料等を整えていく。	研究計画の立案ができる。専門書籍や学術論文が精読できる。プレゼンテーションの技術を身につける。論理的思考力や問題解決能力を身につける	◎	◎	○
総合研究演習Ⅱ P412-842-06	総合研究演習Ⅰで立案した研究計画に基づき研究活動を遂行し、専門的知見について理解を深めていく。研究目的に応じて実験、質問紙調査、市場調査、文献調査などによるデータ収集を行い、得られたデータを適切により分析していく。そしてこれらの活動について適宜プレゼンテーションを行い、ゼミ内でのディスカッションにより、計画の妥当性、データの収集法の精度を検証していく。これらの一連の研究活動を通じて、計画、実行、評価、改善のプロセスを体験し、論理的思考力と問題解決能力を高めていくことを目指す。	研究計画の立案ができる。専門書籍や学術論文が精読できる。プレゼンテーションの技術を身につける。論理的思考力や問題解決能力を身につける	◎	◎	○
総合研究演習Ⅲ P412-842-07	各自の関心に基づいた研究活動を卒業研究としてまとめる。総合研究演習Ⅰ、Ⅱにて収集した実験や調査データの分析結果をまとめ、研究で得られた知見をわかりやすく情報発信するため情報の整理を行う。発案した研究計画において、明らかになった知見、未解決の問題、及び今後の展開など伝えるべき情報を整理することにより、他者へ伝える技能を高めていくことを目指す。まとめた内容は、学科全体で卒業研究発表会にて口頭またはポスターを行う。また卒業論文を選択した場合は、論文用の情報も同時に整理していく。	自ら取り組んできた卒業研究について、問題・方法・結果・考察のかたちで系統的にまとめられるようになること。従来の研究知見と比較できるようになること。	◎	◎	○
卒業研究 P436-845-01	学士課程の集大成として、専門領域に関する卒業論文を完成させる。指導教員の指導とともに、これまでの講義、演習科目で修得した知識を活用しながら、総合研究演習Ⅰ～Ⅲでの研究活動を一つの論文としてまとめ上げる。	学術的視点のもとに立ち、自らが疑問に感じる研究課題に対して真摯に向き合い、科学的に論述していくことを学ぶ。これらの一連の研究活動を通じて、論理的思考力と問題解決能力を高め、多様な領域で貢献するための礎を築くことを目指す。	◎	◎	○
公認心理師の職責 P231-287-01	公認心理師の役割、公認心理師の法的義務及び倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取扱い、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携について理解する。	保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について概説できるようになるとともに、自己課題の発見し積極的に解決する能力を身につけられるようになることを目標としている。	○	◎	○
福祉心理学 P331-287-02	福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援、虐待および認知症についての基本的知識について理解する。	福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。	◎	◎	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
関係行政論 P331-287-03	公認心理師になるために必要な保健医療分野に関する法律・制度、福祉分野に関する法律・制度、教育分野に関する法律・制度、司法・犯罪分野に関する法律・制度、労働分野に関する法律・制度について学習する。	保健医療分野に関する法律、制度について概説できる。福祉分野に関する法律、制度について概説できる。教育分野に関する法律、制度について概説できる。司法・犯罪分野に関する法律、制度について概説できる。産業・労働分野に関する法律、制度について概説できる。	○	◎	
心理演習 P332-287-04	心理に関する支援を要する者等に関する次の知識及び技能の修得(コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等)、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチの場面想定、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学習することを目的とする。	具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)、事例検討を通して、それらに関する知識及び技能の基本的な水準が修得できるようになる。	○	◎	◎
心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ P337-287-05 P337-287-06 P337-287-07	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。	心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について修得する。	◎	◎	◎
障害者教育史 P231-276-05	「障害者をどのようにとらえるか」を意味する障害者観がどのように変遷してきたか、特別支援教育がどのように展開してきたか、そして、障害者教育の内容や障害者教育の方法がどのように展開してきたかを学ぶ。	障害者教育の重要性について理解している。社会における特別支援教育の位置づけについて自分なりの考えをもっている。特別支援教育の現状と課題、今後について自分なりの考えをもっている。	◎	◎	○
知的障害者の心理・生理・病理 P231-276-06	本講義では、知的障害児(者)の障害特性や行動、日常生活や学校生活における支援の仕方、知的障害児(者)や発達障害児(者)の生理、病理について学び、理解を深める。	知的障害児(者)や発達障害児(者)の障害特性について例示ができること、知的障害や発達障害のある児童生徒の教育内容や指導・支援の仕方について説明できること、児童生徒の多様な実態に応じたかかわりができるようになることを目標とする。	◎	◎	◎
知的障害者教育論 P231-276-07	知的障害の定義、知的障害者教育がこれまでどのように展開してきたのか、そして、知的障害者教育の課題と今後について学ぶ。	知的障害について理解している。社会における知的障害者教育の位置づけについて自分なりの考えをもっている。知的障害者教育の現状と課題、今後について自分なりの考えをもっている。	◎	◎	○
病弱者の心理・生理・病理 P231-276-08	本講義のテーマは病弱児の理解と支援である。病弱児の身体やその機能に関する基本的な事項、病弱児が抱える疾患や障害、その生理や心理について、視覚教材も使って講義する。病弱児の心理的・社会的な問題と支援についても広く理解を深める。	①各器官の基本的な働きを理解して疾患・障害を整理・分類できる。②主な疾患や障害を簡単に説明できる。③様々な資料を適切にまとめることができる。④まとめた資料をわかりやすく発表できる。	◎	◎	○
肢体不自由者教育論 P231-276-09	本講義では、肢体不自由児(者)の障害特性について、肢体不自由児(者)の個々の実態や教育的ニーズに応じた教育内容や教育方法を具体的に学び、特別支援学校の様子にも触れ、肢体不自由者教育の現状や今後の在り方についても学ぶ。	①肢体不自由児の障害特性や教育的課題について例をあげて説明ができる。②肢体不自由のある幼児、児童及び生徒に対する教育課程や指導・支援の基礎的事項について論ずることができる。③肢体不自由のある児童生徒の学校での様子から、教育的なかわりの重要な点を説明でき、実践に生かすことができる。	◎	◎	○
病弱者教育論 P231-276-10	本講義では、病弱・身体虚弱児(者)の障害特性に関する基礎的な事項を理解した上で、病弱・身体虚弱教育に必要な知識を学ぶ。	①病弱・身体虚弱児の病気の特性や教育的課題について例をあげて説明ができる。②病弱・身体虚弱の幼児、児童及び生徒に対する教育課程や指導・支援の基礎的事項について論ずることができる。③病弱・身体虚弱の児童生徒に対する教育的なかわりの重要な点を説明でき、実践に生かすことができる。	○	◎	○

心理学部心理学科 カリキュラムマップ		心理学部心理学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	DP-1	DP-2	DP-3
			(1)高い倫理観と豊かな人間性をもって主体的に社会に貢献することができるよう、幅広い教養を身につけたと認められる者	(2)科学的・専門的知識をもって主体的に人間の多様な営みの中の問題を発見・解決できるよう、科学としての心理学の広範な専門知識・技術を身につけたと認められる者	(3)心理学・心理的支援に関する知識・技能を、家族・友人をはじめ多様な集団において実際に活用できるよう、円滑なコミュニケーションを形成し、ストレスマネジメントを施す知識・技能の基礎を身につけたと認められる者
視覚障害教育総論 P231-276-11	視覚障害児に対する理解を深め、子どもたちの障害特性に配慮した効果的な教育支援・指導法について実践的に学ぶ。講義やワークショップを通して視覚特別支援教育に貢献できる教師としてのスキルを身につける。本講義では視覚障害児の心理、特別支援学校(視覚障害部門)における教育支援の基礎的理解を図る。	①視覚障害児の心理、②特別支援学校における視覚障害児の支援方法、③通常の学級における視覚障害児の支援方法、④視覚障害児の障害特性をふまえた支援方法について、実践的に理解することにある。	○	◎	◎
聴覚障害教育総論 P231-276-12	本講義のテーマは発語発音指導法の習得と手話、指文字の活用である。本講義では、長年聾学校で培われてきた発語発音指導法を紹介し、その補助手段の一つとしてのキューサインに触れるとともに、手話や指文字の基礎を学び、聴覚障害者とのコミュニケーション方法を習得することを目的とする。	聴覚障害児に対する発語発音指導の仕方を理解するとともに、手話や指文字を使用してコミュニケーションを図ることができるようになることである。	○	◎	◎
重複障害・軽度発達障害教育総論 P231-276-13	本講義のテーマは重複障害児・軽度発達障害児の育ち・成長・かかわりである。本講義では、特別支援学校教員として現場に出た際に、重複障害児・軽度発達障害児への適切な指導やその保護者の気持ちに寄り添う支援ができるための知識を学ぶ。	①重複障害と軽度発達障害の子どもたちの教育の在り方について分かるようになる。②重複障害と軽度発達障害の子どもたちの心理、行動特徴や対応の仕方についても理解できる。③親や家族へのサポートについて理解し、考える力をつける。	○	◎	◎

◎・・・DP達成のために、特に重要な事項  
○・・・DP達成のために、重要な事項  
△・・・DP達成のために、望ましい事項